

天草家保通信

熊本県天草家畜保健衛生所

TEL 0969-22-3668 FAX 0969-24-4393

HP) <http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/index.htm>

E-mail) amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

今月は平成18年度の肉用牛繁殖成績について述べます。

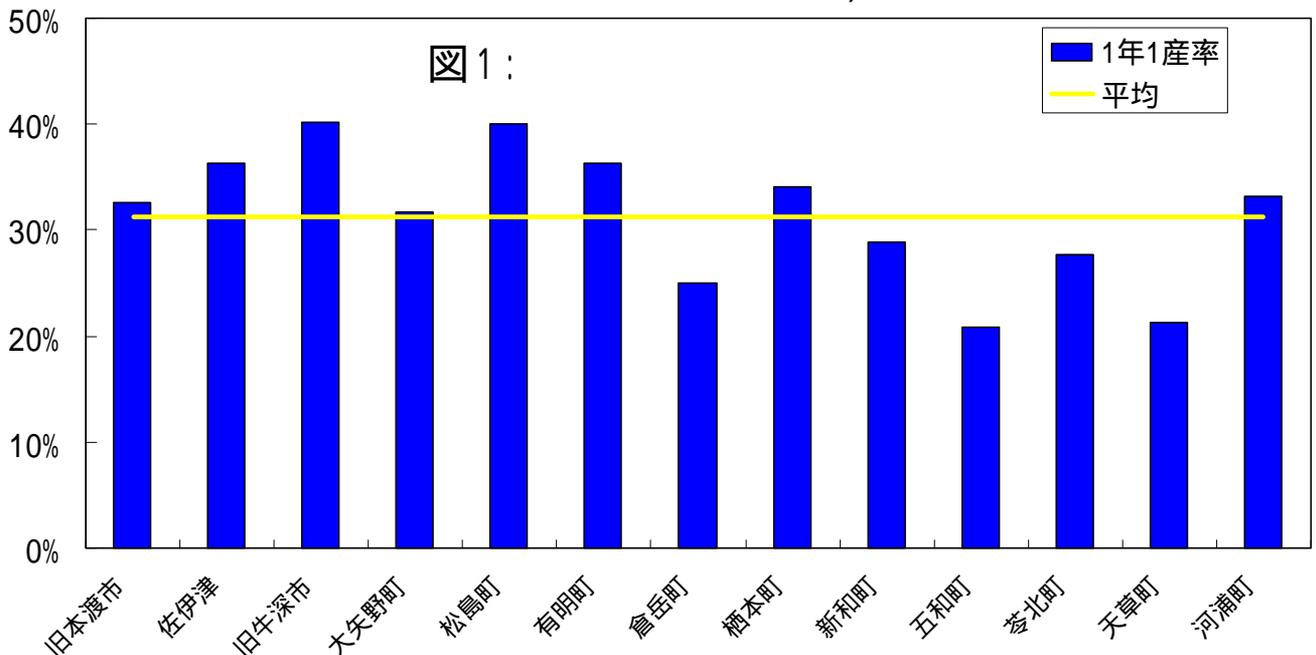
繁殖成績

分娩間隔が1ヶ月のびると、子牛価格の1割の損失になると言われており、空胎期間の延長は、非常に不利益となります。理想は1年1産です。肉牛の平均的な妊娠期間は285日ですが、1年1産を実現するためには、分娩後80日以内に妊娠しなければなりません。

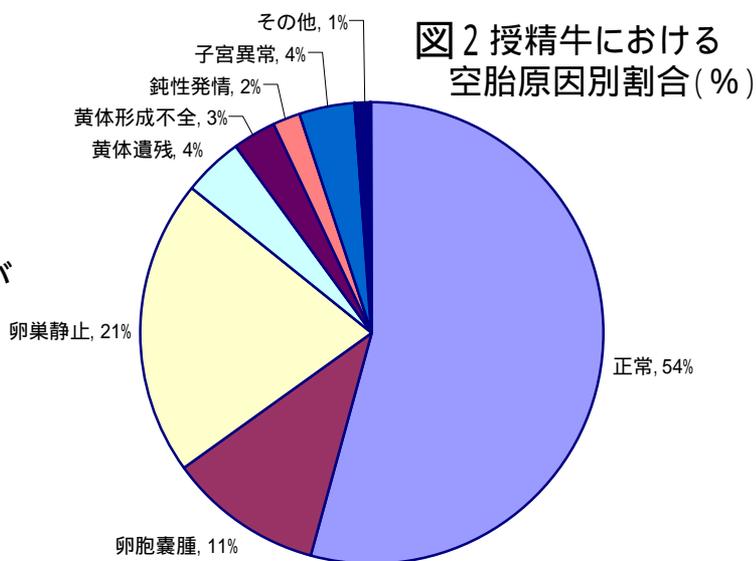
家畜保健衛生所では空胎期間を短縮すべく繁殖検査を行っています。昨年は約2000頭の牛の検査を行いました。今月はその繁殖成績について述べます。下に旧市町別に1年1産率のグラフを示します。(図1)

高い町と低い町では実に20%もの差があります。

1年1産率(H18)



右図は空胎原因の割合ですが、発情が来ない牛の大半は飼養者の見逃しがほとんどで、卵巣は正常に機能していることが多いようです。また2番目に多い原因としては卵巣静止が挙げられます。これは様々な原因が考えられますが、栄養不足も大きな要因となります。1年1産を実現するためには、母牛の栄養管理を適正に行い、発情を見逃さないことが大変重要となります。



1年1産のポイント

飼養方法

母牛は、授乳期の栄養必要量、維持期の栄養必要量、分娩準備期の栄養必要量と、時期毎に必要なとする栄養分量が大きく異なると言う事を、頭の中に入れて牛を飼う事が必要です。

授乳期

母牛が最も栄養を必要とする時期であり、増飼を行い、体重の維持を行うか若干増体させるようにする。
空腹によるストレスが発情再帰や子牛の発育に影響する為、粗飼料は満腹感を与えるため、常に飼槽に入れておき、濃厚飼料の増減で調整を行う。
濃厚飼料の上限は3kgまで。少しずつ給与量を増やすこと。

維持期

子牛が離乳したら体重を調整する時期。太りすぎている場合はこの時期に調整します。分娩3ヶ月前までに適正な栄養状態にすること。
給与量は少しずつ減らすこと。

分娩準備期

分娩3ヶ月前になると胎仔が急激に大きくなります。必要な栄養分も増えますが給与量を増やしすぎると、胎仔が過大となり、難産の原因となるので注意。

その他：年間を通してビタミン類やミネラル類を添加。
2産までは発育途中(48ヶ月で成熟)なので発育に必要な栄養分を増飼。

分娩後の発情

発情の見え方が第1であるので、特に分娩後40～60日間は、牛の挙動、外陰部の変化、発情粘液、乗駕を許す等の状態を朝夕観察することが必須条件。複数頭数を同じ運動場に放すと、他の雌牛の乗駕行動を許すという、典型的な発情徴候が見られ、発情の見え方が、容易になります。

離乳やほ乳回数を制限することによって発情回帰を促進させることが可能。
運動によって発情回帰は早くなります。